



「秋のハープ」開催によせて

「秋のハープ」の曲目や構成を考えるのはとても楽しいことです。ここ数回は、作品が生まれた地域への興味が自然発生的に現れ、vol.6 はイタリア、vol.7 はロシアを取り上げました。今回はドイツに焦点を当て、久しぶりに34 弦のレバーハープも演奏します。

ドイツの作曲家は素晴らしい交響曲、声楽曲、ピアノ曲などを残しましたがハープ独奏曲はほぼありません。「オーケストラを構成するほぼ全ての楽器の為にソナタを書いた」と言われるヒンデミットは、ハープの為に作曲をした貴重なドイツ人作曲家です。今回取り上げる他の楽曲は、その比類ないメロディーをレバーハープ、ペダルハープに編曲して演奏します。

アメリカ、ブラジル、メキシコの作品も取り上げます。「ガヴォット・ショーロ」は平野啓一郎さんの小説「マチネの終わりに」でギタリストの主人公が演奏するシーンがあり、映画化された際は福山雅治さんが演奏しました。

叙情的な調べと心躍るリズムを組み合わせる楽しいプログラムをご用意しました。素敵な時間を過ごしに是非お越しください。

武川 奈穂子

ハープ／武川 奈穂子 TAKEKAWA Nahoko : Harp

横浜出身。桐朋学園大学卒業、在学中にパリ国立高等音楽院に留学。大学卒業時に新人演奏会、読売新人演奏会、日本演奏連盟新人演奏会に出演。第4回日本ハープコンクール・プロフェッショナル部門第3位入賞、マリア・コルチンスカ国際ハープコンクール(イギリス・マン島)特別賞受賞。第4回世界ハープ会議(フランス・セーヴル)出演。札幌市民芸術祭奨励賞受賞。

Kitaraにて「21世紀への懸け橋」シリーズ(全3回)を開催、また2016年から「秋のハープ」シリーズを開始しハープの幅広い魅力を伝える。YouTubeチャンネル Nahoko Takekawa harp にて親しみやすい曲目の演奏を配信、道内各地で吹奏楽・オーケストラのハープパートを指導。様々な団体への出演や室内楽演奏、即興や編曲など多彩なシーンにハープの音色を届けるよう研究を重ねている。近年は鍵盤楽器演奏や合唱にも活動の幅を広げる。

札幌大谷大学芸術学部音楽学科非常勤講師、札幌音楽家協会会員、井関楽器音楽教室講師。

使用予定楽器 Lyon&Healy Prince William
AOYAMA 130N

YouTubeチャンネル
Nahoko Takekawa Harp

